

2022 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人きもの笑福

代表者・役職名 氏名 理事長 鎌田弘美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

文化交流プロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2012 年中学校の学習指導要領改訂により、和装教育が必修化され 2014 年に家庭科教諭のサポートする相談を受けたことが事業のきっかけである。学校には児童養護施設より通う生徒が在籍すること、ゆかたの用意が出来ない子供たちが多いことを知り、ゆかた一式を用意して授業できるようにした。貧困による教育の格差をなくす弊団体の活動を理解され、他の学校に広がりを見せて NPO 法人を設立した。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

現代の共働き世帯の増加と多忙な日常生活の中では、家庭における日本の行事や日本人としての習慣が希薄になりつつある。特に多摩地域は布を税として納めていた税制が地域名として残っている。グローバル化された今こそ、多摩地域が遺してきた歴史と、日本人が遺してきた文化の教育活動は急務だと考える。海外留学生支援が立ち上がり、今後は留学生だけではなく、難民の子供たちにも広げていきたいと考えている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ① 多摩地域のきもの歴史や日本の気候風土が作った文化であるという説明をする
- ② 男女ゆかた(弊団体は大人用 80 着、小学生以下子供用 20 着を今年度購入)
紐(女子は 3 本、男子は 2 本)、
伊達締め 2 本
半幅帯、角帯一式を
全員に用意して着る実技体験をして、日本文化に触れる。
- ③ 着あがった後に所作・マナー、昔から柄の説明もする。
- ④ イベントにより振袖を着せて、写真撮影をする。

弊団体講師は受益者数に合わせて 4~6 名体制で臨む。
中学校や大学、地域の社会福祉協議会からの依頼を受けて行う。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

この事業に参加した子どもたちや地域の一般市民の方々は、単にゆかたを着て祖先や歴史を振り返るだけにとどまらず自己肯定感を得ることができた。きものにはほんの地理的条件や文化などの社会的環境が作り上げた産物である。これを着る体験をすることで、社会と個人を結びつけ子供たちの中に日本人としてのアイデンティティが生まれる。この効果は小さい頃から体験することが大切であり、共同体への帰属意識や子供たちの学習意欲向上に繋がると考えている。コロナウイルスの影響で縮小されるなか、子供達が生き生きと体験する瞬間を共有できたこ

とは大きい。今後も弊団体の活動は地域の子供たちへの地元愛を育たせ、地域活性化に寄与してまいりたいと強く考えている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

コロナウイルスの影響で学校のイベントは減少ある中、このプロジェクトを利用した学校には卒業アルバム用に写真撮影して思い出を残す校長先生の気持ちが伺える。子供たちの思い出がなくならないように、次年度も貴団体の更なる応援を頂きながら弊団体の活動を幅広い地域でも行うことで、子供達への文化教育活動を浸透させたい。
子供の居場所や、一般市民向けなどへの周知にも力をいれて今後更に増やしていきたいと考えている。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

